

発行所

一般社団法人 埼玉県電業協会
〒336-0031 さいたま市南区
鹿手袋4-1-7(建産連会館内)
TEL 048(864)0385
URL http://www.saidenkyo.jp/
E-Mail kyokai@saidenkyo.jp

彩の耀

さいのかがやき

第185号

平成30年11月1日発行

発行人 岡村一巳

編集人 広報委員会

(委員長 矢嶋博和)

編集 日本工業経済新聞社
(埼玉建設新聞)

陸上自衛隊の活動から学ぶ、災害復旧対策講習会 復旧に欠かせない電気という生活インフラを守る立場から



岡村会長

解するとともに、電気という生活インフラを守る立場から後方支援の在り方を考えました。

岡村会長は当日発生した北海道胆振東部地震の被災者へのお見舞いの言葉を述べた後「当協会では13年前に、県と災害時における応急・復旧対策に関する協定を締結し、これに基づき非常時の体制づくりに取り組んでいるところです。ぜひともきょうの講習会の内容を災害発生時の対応の参考としてください」とあいさつしました。

第1部では県危機管理防災部消防防災課災害対策担当の萩野修主幹が『埼玉県の災害対策について』と題し、県の防災体制、市町村との連携、近年の主な災害対応について説明。総務省が構築した被災市区町村応援確保シ

ステムによる災害マネジメント総括支援員の派遣などを紹介しました。

引き続き第2部では陸上自衛隊大宮駐屯地第32普通科連隊第4中隊運用訓練幹部の齋藤稔博一等陸尉が『災害時の取り組みについて—陸上自衛隊における大規模災害への対応—』をテーマに、行方不明者の捜索活動や荒れ果てた家屋のがれき処理、悪条件での生活物資の輸送、給水など生活支援活動について報告しました。

最後に当協会の積田優事故防止対策委員長が熊本地震災害復旧支援・視察会を教訓に、災害協定が機能するかマニュアルの検証の必要性などについて話しました。

システムによる災害マネジメント総括支援員の派遣などを紹介しました。

引き続き第2部では陸上自衛隊大宮駐屯地第32普通科連隊第4中隊運用訓練幹部の齋藤稔博一等陸尉が『災害時の取り組みについて—陸上自衛隊における大規模災害への対応—』をテーマに、行方不明者の捜索活動や荒れ果てた家屋のがれき処理、悪条件での生活物資の輸送、給水など生活支援活動について報告しました。

最後に当協会の積田優事故防止対策委員長が熊本地震災害復旧支援・視察会を教訓に、災害協定が機能するかマニュアルの検証の必要性などについて話しました。



齋藤一等陸尉



萩野主幹



講習会全景



積田委員長

ヒューマンエラー抑止へ 平成30年度 安全大会を開催



熊田副会長

災害事例』をテーマに安全講話を実施しました。

開催にあたり熊田弘信副会長は「きょうは事例などを踏まえながらヒューマンエラーに関する話があります。皆さまも一度や二度は経験があるかもしれませんが、ヒューマンエラーは大きな事故につながることもあります。しっかりと話を聞いて企業に持ち帰り、社内で指導していただければと思います」とあいさつしました。

訓示で田中氏は戦国の武将、毛利元就が3人の子に書いた三子教訓状に基づく3本の矢の教えを引き合いに▽労働安全衛生法の順守▽国の通達(ガイドライン)の徹底▽自主的安全衛生活動—の重要性を述べ、「私は正しいの正の字はいったん立ち止まることだと理解しています。一歩立ち止まりこれから自分が起こす活動が安全なのか確認することが大切です」と冷静な判断を呼び掛け

ました。

引き続き菊地氏が安全管理についてヒューマンエラーの具体的な対策を12の特性に分け解説。「対策の手立てがないと諦めの声も多いが諦めては駄目。人間は機械と違い臨機応変に対応できるが、時に自分勝手な行動を取る。対策の第一歩は原因となる人間の特性を知ること」と注意を促しました。

施工現場における災害事例では、ローリングタワー(移動式足場)の設置不備が招いた事故、店舗工事での感電、動力制御盤改造工事での焼損—のそれぞれのケースを紹介。菊地氏は「特にきょう話したいのはTBM(ツール・ボックス・ミーティング)の重要性と、指示した記録の保管の大切さです。準備を確実にを行った場合の事故は非常に少ない。真の原因をいろいろな角度から考察して事故を減らすことを願っています」と話し講話を終えました。

その後は積田優事故防止対策委員長の掛け声で、『新たな視点でみつめる職場 創意と工夫で安全活動 惜しまぬ努力で築くゼロ災』のスローガンを唱和しました。



講師の田中氏



講師の菊地氏



「彩の耀」に寄せて



八潮市市長

大山 忍

「彩の耀」第185号の発行を心からお喜び申し上げます。

一般社団法人埼玉県電業協会の皆さまにおかれましては、日頃から電気設備産業の適正な運営と健全な発展にご尽力賜り、社会生活の安定と社会福祉の向上にご貢献をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

八潮市は埼玉県の東南部に位置し、南は東京都の足立区・葛飾区、北と西は草加市、東は三郷市と隣接しています。また、本市は、東に中川、西に綾瀬川、伝右川、南に埴川、大場川といった一級河川に抱かれるように囲まれ、東京都心から15km圏内にある交通便利性の高いまちでありながら、身近に水辺や自然が感じられるまちでもあります。平成17年には、本市最大の行政課題であった鉄道誘致が実現し、つくばエクスプレスの開業に合わせて八潮駅がオープンしました。全国的に人口減少社会を迎える中、つくばエクスプレスの開通に伴い、八潮駅周辺地区の宅地開発をはじめ、東京都心へも20分以内という好アクセスの立地条件とも重なり、現在も着実に人口の増加が続いております。平成29年中の人口増加率は、県内の市で最も多い2.1%を記録し、平成30年の6月には人口9万人を突破しました。

八潮市では、「第5次八潮市総合計画」を策定し、「共生・協働」「安全・安心」をまちづくりの基本理念とし、「住みやすさナンバー1のまち」を目指して市民と行政が一体となったまちづくりを推進してまいりました。また、2期目を迎えた現在では、「健康」をキーワードに、「住みやすさナンバー1のまち」への第二章として「ひと・暮らし・まちが、健やかで、元気な先端「健康」都市・八潮」をつくることを目指しております。

高齢化社会がすすむ中、本市では、市民の皆様の健康・暮らしの健康・まちの健康に全力で取り組んでいます。健康都市のためにやるべきことは数多くあり、医療・介護・福祉の充実だけでなく、予防医学の観点から健康管理・体力づくりを行える環境整備が重要だと考えております。また、「ひと」の健康管理だけでなく、安心して暮らしていくためにも地域社会が温かく、助け合いの心があり、活力を持って生活できるような「暮らし」の健康も必要不可欠です。暮らしの安心につながる防犯防災対策や、地域の活力を支える地域産業の活性化や賑わいの創出を進めています。そして、生活の基盤となる都市のハード面「まち」の健康も重要であり、公共施設の老朽化対策（アセットマネジメント）を効率的に推進しております。

また、八潮市では子育て環境の充実にも努めております。昨年4月からは、小中学生の医療費の全額助成や、子どもの出生を祝う誕生祝金制度、7月には、市内の様々な子育て情報の検索や閲覧ができる「やしお子育て応援ナビ」のウェブサイトアプリの運用を開始しました。また今年10月からは、安心して妊娠期から子育て期まで送れるように子育て世代包括支援センター「にじいろ子育て相談室」を開設し、子育てに関するさまざまな相談に応じております。引き続き、子育て支援をはじめ、次代を担う子どもたちや市民の皆様が健康で社会参加のもと夢や希望を持って過ごすことができる協働のまちづくりを進めてまいりますので、皆様のより一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人埼玉県電業協会の益々のご発展と会員皆さまのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶いたします。

ビジネスマナーを再確認 岩崎電気ショールーム見学も

新入社員フォローアップ研修

9月26日、27日の2日間、新入社員フォローアップ研修を開催しました。初日はさいたま市中央区のホテルプリランテ武蔵野でビジネスマナーを専門とする井島鈴子氏を講師に招き、確実なキャリアアップを積むための再教育を実施しました。また2日目は賛助会員の岩崎電気(株)本社・ショールーム(東京都中央区)を見学。電気技術講習として各種ランプの特徴やLED照明などについて学び、計算ソフトによる照明分布図作成演習などを体験しました。

佐野雄一朗人材育成委員長は「教えることを専門としている先生に教わることがとてもプラスになります。きょうの先生の指導を心に留めて、多くのことを身に付け、自分の仕事を理解した上で今後の社会生活に役立てていただきたい」と有意義な研修となるようエールを送りました。

井島氏は開始にあたり「その時々で環境に合わせる事が大事です。皆さんが社会人として過ごす30年後のことまでお伝えしますが、柔軟に今このラインでものを言えばいいのか、自分で考えながら仕事をしてほしいと思います」と話し講義に入りました。

新入社員研修時のおさらいからはじめ、自分を育てるためのPDCAを再度徹底して叩き込みました。プロ意識の形成、生産的な会話の習得、顧客満足の追求などについて学び、職場で必要となるコミュニケーションの基本を再確認した後、ロールプレイング(模擬体験を通じた訓練)を行いました。

2日目は前日の研修後に宿泊した同ホテルから日本橋馬喰町の岩崎電気本社にバスで移動。国内営業部の山田智彦副本部長は「本日は光について学んでいただ

き、皆さま方のお客さま、施主さまへのご提案の1つなれば幸いです」とあいさつしました。

講習ではLCSの佐伯智明所長が光の基礎・LED照明について説明。LED照明の発光方法とメリットなどについて学びました。

引き続き展示スペースでLED製品の説明を受けた後、さいたま営業所の高松裕史主任の指導の下、簡易照明計算ソフトを使い理想のサイン照明を選び、コスト計算を体験し、提案書を作成しました。



佐野委員長



講師の井島氏



山田副本部長



ソフトを使い顧客への提案を実演

企業対策 セミナー

円滑な施工の確保へ

企業対策セミナー開催 埼玉空衛と共催で



当協会と埼玉県空調衛生設備協会の共催による企業対策セミナーが8月6日、県と国土交通省の職員を講師に招き、さいたま市中央区の県男女共同参画推進センターで開かれ、両協会員約70人が参加しました。県からは設備工事における施工のポイント、国交省からは営繕工事の円滑な施工確保に向けた対応などが説明されました。国が推し進める働き方改革の取り組みや、設備工事など後工程にしわ寄せを生じさせないための改善策などについて学び、営繕工事についての知識を深めました。

開会にあたり埼玉空衛の飯沼会長は「自分の体はもとより、社員、下請け業者さんにおよぶまで目を行き届かせて、絶対に災害が起きないように指導をお願いします」とあいさつされました。

県の講義では都市整備部設備課の後藤茂樹主幹が設備工事施工のポイントを解説。書類・現場検査における指摘事項を確認した上で、改修工事における撤去前の既存設備の状況記録などについて注意を促しました。

次に県土整備部建設管理課の妹尾敦主幹が建設業法に基づくコンプライアンスについて、下請負人との公正な取引引きなどを中心に説明。経営者が模範となっ

てリーダーシップを発揮することの大切さを伝えました。

国交省の講義では高原洋介官庁施設管理官が円滑な施工確保に向けた各種取り組みについて、各工程の適正な施工期間の設定、週休2日現場閉所の試行など最近の動向を説明しました。

引き続き地土文信技術・評価課課長補佐が競争参加資格申請書作成時の留意事項について、申請書に添付する図面提出の指示で、追記された改善点や工事案件ごとの例示記載など気を付けるべき点を詳しく解説しました。

閉会にあたり岡村会長は「本日の内容をそれぞれの方が会社に持ち帰り、今後の仕事の参考にいただければと思います」と締めくくりました。



高原管理官



地土課長補佐



後藤主幹



妹尾主幹

埼玉県認定 職業訓練

自動火災報知設備に関する内容中心に 消防設備士甲種4類受験準備講習会

事業
主要

6月18日、25日、7月2日の3日間、消防設備士甲種4類受験準備講習会を実施しました。講師は1級建築士事務所SEEDO代表の関根康明氏。試験の大半を占める自動火災報知設備に関する内容を中心に講義を行いました。

関根氏は「甲種と乙種の2種類あるわけですが、乙種は整備、点検のみで、甲種は工事を含めた全てができます。皆さんは工事会社に勤めているわけですから、当然工事ができないと意味がないということで、今回受講されていると思います。ぜひ集中して聞いてください」と話し講義に入りました。

3日間のメニューは、消防設備士受験ガイド、法令の基礎知識、消防関係法令の基本問題、構造・機能関係の基本問題、自動火災報知設備の設置、警戒区域の

設定方法、製図問題などで構成。

ホテルなどの建築物は、用途、規模、収容人員に応じ、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備、自動火災報知設備などの消防用設備、または特殊消防用設備などの設置が法律により義務付けられています。

これらの作業には消防設備士の資格が必要で、新しい知識や技能の習得のため、定められた期間内に都道府県知事が行う講習会の受講が必要となっています。

4類では自動火災報知設備の配線図や系統図を理解するとともに、感知器の設置場所の適否などを判別できなければなりません。



講師の関根氏

建設産業担い手確保・育成事業（県補助事業）受験準備講習会を開催

電気工事施工管理技士

傾向探り解答能力養う

■1級電気工事施工管理技術検定試験受験準備講習会（実地コース）

9月5日、12日、19日、26日の4日間、1級電気工事施工管理技術検定実地試験受験準備講習会を開講しました。講師はケイ・教育企画サポート事務所代表の小泉一夫氏。出題傾向の予想のもと模擬試験で解答能力を養い、各受講者に合わせ学習指導を行いました。

小泉氏は「決して受からない試験ではありません。仕事をしながら勉強するのはたいへんだと思いますが頑張ってください。18人全員の方が実地試験をクリアして資格を取得できるようにサポートしていきます」と話し指導を開始しました。

この日はまずガイダンスに沿って出題範囲、記述式解答書や施工経験記述の作成方法など初歩的な説明を行い、午後から模擬試験に臨みました。

毎回個人別学習指導を実施。施工経験記述、法令、施工管理、用語の定義などについて過去に出題された問題を参考に、試験問題の傾向を探り、受講者に合わせ対策を講じました。

電気工事士

基準変更に対応して準備

■第二種電気工事士試験受験準備講習会（技能コース）

7月10日、11日の2日間、第二種電気工事士試験受験準備講習会（技能コース）を開催しました。講師はWSK Brain Group & RIC 代表の渡邊一雄氏。判断基準が変わった技能試験の概要、試験当日のスケジュールなどを確認した後、重大欠陥を招かずに試験に合格するためのコツが伝えられました。2日で13問を習得。材料を見て問題を理解することや、単線図を見ただけで作業ができるように訓練しました。

渡邊氏は「技能ですから頭で覚えてもなかなかうまくいきません。自転車に乗るのと同じで、体で覚えることが大切です」とあいさつしました。

合格の判断基準は平成29年度に変更されました。従前であれば軽欠陥2つまでは合格でしたが、軽欠陥が全て欠陥と判断され不合格とみなされるため、これまでよりも正しい作業を心掛けることが重要となります。

参加した受講生は用意されたケーブルなどの部材を使って、本番さながらの作業をこなしました。

酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習

危険を未然に防ぐ対策徹底へ

事業
主要

6月4日、5日、6日の3日間、酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習を開催しました。現場の安全を守る作業主任者の責任と役割の重要性を伝え、徹底すべき具体的な対策・対処法を学びました。

講師は東京労働基準協会連合会などで講師を務める久保田隆一氏、ケイ・教育企画サポート事務所代表の小泉一夫氏、土戸労働衛生コンサルタント事務所代表の土戸善博氏、(株)重松製作所教育部長付主任部員の久米史郎氏、(有)エコ・セフティ営業本部長の吉野巖氏、イチロー安全教育研究所所長の鈴木一郎氏、日本赤十字社救急法救急員の鳥居塚洋行氏の7人です。

1日目は酸素欠乏・硫化水素の発生原因および防止

措置に関する知識などについて学習しました。2日目は酸素欠乏症・硫化水素中毒と救急蘇生に関して学び、事故が起きた場合の退避、手当て、一次救命措置の手順を確認。保護具に関しても、各種呼吸器の正しい選定、装着前の点検と装着上の注意点などを学び、試験を行いました。

3日目の実技では酸素・硫化水素濃度の測定方法のほか、救命救急法、救急蘇生の方法などについて指導を受け、修了試験を実施しました。



講師の久保田氏

創設された新検定に備え

電気通信工学テーマに 技術講習会開催

平成29年11月の建設業法施行令等の改正で創設された電気通信工事施工管理技術検定の実施に備え、8月1日に(株)ミライト第二ソリューション事業本部の西勝副本部長を講師に招き『電気通信工学とは』をテーマに、さいたま市南区の建産連研修センターで平成30年度第1回技術講習会を開催しました。県、市町村職員、会員企業社員など約90人が参加。またプログラム実施者として同協会がプロバイダー登録した建設業振興基金の内田浩美主任を迎え、電気、管工事を新たに加えたCPD制度の運営について説明を受けました。

岡村会長は「当協会ではこれから受験準備をはじめ、災害復旧対策や技術を磨くための講習会の開催を順次予定していますので、詳しくは当協会のホームページをご覧ください」と今後の事業活動を紹介。引き続き今回の講習会の趣旨を話し講師を紹介しました。

西氏は電気通信工学の概要と工事例として、第1部で『電気通信とネットワーク、ネットワーク設備』、第2部で『情報設備とセキュリティ』について解説。災害時など、いざというときにその機能が大きく求められる社会的な役割から、電気通信事業法の特徴、電波・通信設備の構造、工事例、情報設備を理解するときに基本となるつながる仕組みと情報設備の働き、ウイルス、ハッカー対策などについて、専門知識を全体的に分かりやすくフォーカスして説明しました。

内田氏は4年前から運営しているCPD制度において、ことし4月から電気、管工事施工管理技士を加えたことや、個人、企業の登録数など運営状況を報告。建築技術教育普及センターが統合管理している情報提供制度により、各CPD団体との講習会などのプログラムとCPD実績の共有化が図れるメリットなどを紹介。継続学習を見える化することで、品質の良いものをつくり続け広く社会に認知してもらうことに貢献する制度の重要性を伝えました。



講師の西氏



振興基金の内田氏

で、品質の良いものをつくり続け広く社会に認知してもらうことに貢献する制度の重要性を伝えました。



電気通信工事の技術検定創設を受け実施された講習会

技術者不足を補う目的で
新たな国家資格が
創設されました。

『電気通信工事施工管理技術検定』が 平成31年度から実施されます。

平成28年10月19日に開催した学識経験者からなる『適正な施工確保のための技術者制度検討会（第13回）』において、技術者1人あたりの工事量が増加傾向にあり、今後の技術者不足が懸念される電気通信工事業について、技術者の確保のため、電気通信工事に関する新たな国家資格（技術検定）の創設について早期に検討が必要とされました。

これを受け、電気通信工事に関する新たな国家資格（技術検定）の創設に向けた検討会が設置され、平成29年6月2日に制度の概要が取りまとめられました。その後、平成29年11月10日に建設業法施行令等の改正を行い、電気通信工事施工管理技術検定が創設されました。

施工管理技士技術検定制度は、建設業法第27条第1項に基づき、国土交通大臣指定機関が実施する国家試験です。

平成31年度より、新たに1、2級電気通信工事施工管理技士試験が実施されます。検定に合格した者は所定の手続きによって国土交通大臣から技術検定合格証明書が交付され、『1級、2級電気通信工事施工管理技士』の称号が付与されます。

この技術検定合格者には建設業法で定められた専任技術者（建設業許可）や電気通信工事の主任技術者、監理技術者として従事することができます。

電気通信工事施工管理技術検定試験に関する問い合わせ先
一般財団法人全国建設研修センター試験業務局電気通信工事試験部電気通信工事試験課
〒187-8540 東京都小平市喜平町2-1-2

TEL 042(300)0205(代) ※電話番号のおかけ間違いにご注意ください。

電気設備業の魅力伝える

川越高等技術専門校の生徒が 冷暖房設備設置現場見学



川合副会長

8月22日、冷暖房設備設置工事を行っている川越市立南古谷小学校で県立川越高等技術専門校の生徒、教師26人を迎え、電気工事技術研修会を実施しました。実際の施工現場を見てもらうとともに業界でのキャリアアップの仕組みなどを解説。就職へのガイダンスとして電気設備業の魅力を伝えました。

開会にあたり川合昭副会長が「今皆さんが学校で勉強している技術や技能が実際に社会の役に立っているということを実感してほしいと思います。ぜひきょうの機会を将来に生かしていただきたい」とあいさつしました。

同校の三宅瑞絵校長は「協会の皆さまには貴重な勉強の場を与えていただきまして本当にありがとうございます。きょうの機会をぜひ就職に結び付けていきたいと思っています」とお礼を述べられました。

研修会ではまず施工を担当している飯島電器工事(株)を代表して飯島将史人材育成委員から現場の概要が説明され、入場前にけがのないよう安全面に関する注意事項を確認しました。

工事は各建物に合計30台のエアコンを増設するものです。これに伴いキュービクル増設・改修を行い、室外機置場を3箇所へ設け、各所に動力盤を新設。各室内機に電源と通信線を配線し、各教室入口に空調リモコンを取り付け、職員室の集中リモコンで管理する仕組みとなっています。

現場見学では3班に分かれ外部のキュービクル改修や普通教室内部の室内機増設のようす、またその天井内、室外機搬入・据え付け現場などを見て回りました。

意見交換の場として設けられた質疑応答では順番

に全員が発言しました。お礼の言葉や質問、意見が活発に飛び交い、職場環境、給与・手当など待遇面、業界の将来性、現場代理人の役割、資格取得の重要性などについて飯島室長が生徒1人ひとりにていねいに回答しました。

また佐野雄一郎人材育成委員長が業界に入職してからのキャリアアップの道しるべとして同協会が作成したキャリアルート(冊子)を使い、電気工事士の仕事のやりがいや魅力についてアドバイスしました。

冊子は業務内容とライフプランを考えながら技術を磨くために必要な経験年数や資格取得目標などを具体的に示したもので、協会のフォローアップ体制も明確に分かりやすく書き込んであります。

佐野委員長は「技術の伝承がなにより大事。技術者の高齢化が進んでいますが、若い人につなぐ、途中途の杭になる人が必要」と参加者の今後の成長を期待してエールを送りました。

なお最後に企業概要説明として求人希望する企業5社から自社のピーアールが行われ、生徒は皆、企業の所在地などを確認しながら熱心に聞いていました。



現場事務所前で全員で記念撮影



三宅校長



佐野委員長

県に義援金を贈呈

西日本豪雨被災地へ

西日本豪雨による被災者の生活再建支援として7月23日、岡村会長が県庁の危機管理防災センターを訪れ、槍田義之危機管理防災部長に義援金を手渡しました。

平成最悪の規模となった西日本豪雨による被害は、想定を超える広範囲な地域に深刻な爪痕を残しました。土砂崩れや河川の氾濫が多発する中、その後の記録的な暑さが追い打ちをかけ、住民やボランティアに疲労を蓄積させる過酷な状況が続きました。

岡村会長は「時間が経つに従って住民の方々が求めるものも変わってくるでしょう」と話し、長期化することによる心労やプライバシーの問題などを心配。連日報道されている過酷な被災地の状況を思い、身の安全と日常とかけ離れた生活環境に置かれた被災者を案じました。

槍田部長は義援金への感謝を伝えるとともに、「我々も全力で支援にあたっています。被災者の方々が1日でも早く通常の生活に戻れるように埼玉県としても一丸となって取り組んでいます」と、岡山県倉敷市への職員派遣の状況について話し、本格的な復旧・復興に向け体制を整備し、迅速な対応を図る考えを述べられました。



槍田部長(右)に義援金を手渡す岡村会長

祭りとお話の秩父

共和電機株式会社 常務取締役 小泉 賢



秩父地方には年間三百を超えるお祭りがあると
言われています。中でも多くの方に知られてい
るのが秩父夜祭です。日本三大曳山祭りの一つに
数えられる秩父神社の例大祭で、江戸時代寛文年
間から続くお祭り、約三百数十年の歴史がありま
す。江戸中期、秩父神社に立った絹織物の市「絹
大市」（きぬのたかまち）の経済的な発展と共
に、盛大に行われるようになり、その後日本を代
表する祭りとして知られるようになりました。

毎年12月1日から6日に行われ、12月2日が宵
宮、12月3日が本祭です。6台の山車（笠鉦2
台、屋台4台）はくぎを1本も使わずに組み立て
られており、金色の飾り具や極彩色の彫刻、後幕
の金糸の刺繍で装飾された笠鉦、屋台は「動く陽
明門」ともいわれるほど豪華絢爛で、国の重要有
形民俗文化財に指定されており、平成28年12月1
日には「秩父祭の屋台行事と神楽」がユネスコ無
形文化遺産に登録されました。

祭りの見どころは12月3日の夕刻に秩父神社か
ら1キロほど離れた御旅所に向けて出発する御神
幸行列で、6台の山車がそれに続きます。御旅所
手前の難所の急坂「団子坂」を最大20トンを超
える山車が多くのお祭り手によって曳き上げられ、秩
父特有の極寒の夜空に打ち上げ花火の競演が人々
を魅了し最高潮を迎えます。

秩父夜祭りは秩父神社にまつる女の神様「妙見

菩薩」さまと武甲山に住む男の神様「龍神」さま
が年に一度、御旅所で逢い引きをすると伝えられ
ています。神秘的な話を解るのが御神幸行列の先
頭に行く大櫓に巻きつけられた藁づくりの龍神で
す。この龍神は、毎年4月4日に行われる「御田
植祭」において、市内に鎮座する今宮神社境内の
竜神池から迎える水神様の御神体に他なりません。
しかも、この竜神池の湧き水は、秩父神社に
対面してそびえる武甲山の伏流水であり、盆地を
うるおす大切な水源なのです。秋の収穫を終えて
の夜祭の神幸祭には、春先に招迎えをした武甲山
の竜神を初冬に歓送するという太古以来の壮大な
風土の神祭だということを読み解くことができる
のです。

秩父夜祭もまた、秩父盆地の生活風土を神話
的世界に包み込む祭礼によって、とかく薄れがちな
故里の風貌をなお色濃く守り伝えている伝統ある
祭礼文化ではないで
しょうか。

秩父夜祭を見たこ
とがある方ない方こ
んな話があるのだと
感じて頂ければ幸い
です。

「そうだ、秩父に
いってんべー」



埼電工組と共催で婚活パーティー開催 今回もカップル成立

当協会と埼玉県電気工事工業組合の共催による婚
活パーティーを7月22日、さいたま市南区の建産連
会館1階カフェ ビストロ ルヴァンで開き、16人が
参加しました。

この婚活パーティーは両団体の会員、組合員の福
利厚生の一環として、電気工事業界で働く人の職場
定着を主眼に、自らのライフサイクルの確立と社会
的な自立を促し、長く広く活躍する人材を育てるこ
とを目的に開催。今回で3回目の開催です。

当日は同組合事務局の西川潤主任の司会進行のも
とスタート。参加者は1対1のトークタイム、フ
リートークでの歓談タイムなどにより、終始和やか
な雰囲気の中で交流を深めていました。

最後にカップリングを行い1組のカップルが成立
しました。

荒川専務理事は「今回は人数を抑え、申込時に提
出いただいた参加者のプロフィールカード情報など
を手元資料としてお配りし、お話がしっかりでき
るような雰囲気づくりに努めたことで、手作り感満載
の和やかな会になったと思われま。また当日の会
場のスタッフも双方若干名とし、参加される方々の
匿名性を確保しました」と今回の開催を総
評。反省点などについて両団体で話し合いな
がら、これからも参加
される方の気持ちを第
1に考え、次回開催
へ結び付けていく方針
です。



会場の「カフェ ビストロ ルヴァン」

電業協会今後の 【行事予定】

埼玉県電業協会では、毎年2回の技術講習会を行って
います。この講習会へは、官
公庁の技術職の方へもご通知し、最新の電気設備に
関する技術の習得のため、学ん
でおります。ご興味のある方は、是非ご参加いた
だきますようお願いいたします。

行事内容	日程	行事内容	日程
第一種電気工事士試験受験 準備講習会(技能)	11月3・17・24、 12月1日	高圧・特別高圧電気取扱者特別教育	11月12・13日
婚活イベント	11月4日	県庁オープンデー出展	11月14日
低圧電気取扱者特別教育	11月5・6日	電設業界説明出前授業	12月4日
会員大会	11月9・10日	第2回技術講習会	12月中旬
		県住消防点検説明会	12月中旬

協会のうごき

8月

- 1日 第1回技術講習会
第3回技術研究委員会
- 6日 第2回企業対策セミナー
第3回企業対策委員会
- 22日 電気工事技術研修会
- 24日 第3回総務委員会

9月

- 6日 災害復旧対策講習会
第4回人材育成委員会
第2回広報委員会
- 18日 第3回企業対策セミナー
第7回理事会

10月

- 4日 技術現場研修会
第4回技術研究委員会
- 16日 第8回理事会
- 27・28日 登録電気工事基幹技能者講習

建設産業担い手確保・育成事業(県委託事業)

1級電気工事施工管理技術検定試験受験準備講習会 (実地コース・さいたま×4回)	9月5・12・19・26日
2級電気工事施工管理技術検定試験受験準備講習会	10月3・10・17・24・31日
第一種電気工事士試験受験準備講習会(筆記コース×5回)	8月24・31日、9月14・21・28日
平成30年度新入社員フォローアップ研修	9月26・27日

埼玉県認定職業訓練

1級電気工事施工管理技術検定試験受験準備講習会 (実地コース・熊谷×4回)	9月1・8・15・29日
登録電気工事基幹技能者認定講習	10月27・28日



県立川越高等技術専門校の生徒が参加した電気工事技術研修会

(一社) 埼玉県電業協会会員

支部長◎ 副支部長○

さいたま支部 (12社)

- 旭電気工業(株)(大宮区)
- 浦和電気工事(株)(南区)
- 大塚電設(株)(浦和区)
- (株)岡村電機(緑区)
- 埼玉電設(株)(中央区)

- 新生電気工事(株)(見沼区)
- 竹内電気(株)(岩槻区)
- ◎(株)積田電業社(浦和区)
- 中村電設工業(株)(岩槻区)
- (株)万代電気工業(桜区)
- 瑞穂電設(株)(北区)
- (株)八洲電業社(北区)

東部支部 (13社)

- (株)内田電気商会(久喜市)
- (株)大久保電気(越谷市)

- 倉持電気(株)(三郷市)
- (株)三進電気工事(上尾市)
- 島村電業(株)(上尾市)
- (株)新電気(三郷市)
- ◎(株)大広電気(八潮市)
- 太平洋電設工業(株)(越谷市)
- (株)高岡電気工業(松伏町)
- ニチデン技術サービス(株)(北本市)
- 野口電気工事(株)(越谷市)
- 深井電気(株)(北本市)
- (株)弓木電設社(白岡市)

西部支部 (18社)

- 飯島電器工事(株)(川越市)
- ◎(株)之瀬電設(志木市)
- (株)大庭電気商会(川越市)
- (株)岡島電気商会(川越市)
- (株)おぎでん(川越市)
- 熊田電気工事(株)(狭山市)
- (株)三共電気商会(和光市)
- (株)関根電気商会(川越市)
- 相馬電業(株)(和光市)
- (株)電成社(川越市)
- (株)中村電気(新座市)
- 橋電(株)(所沢市)
- (株)橋本電工(所沢市)
- フジヤ電気工事(株)(川越市)
- (株)北産電設(所沢市)
- (株)まつもと電機(和光市)
- (株)明電社(川越市)
- (株)ヤマト・イズミテクノス(ふじみ野市)

- (株)佐久間電設(川口市)
- 佐野電機(株)(川口市)
- 三位電気(株)(川口市)
- 高山電設工業(株)(川口市)
- (株)田部井電気(川口市)
- 釣谷電機(株)(川口市)
- 那須電機工業(株)(川口市)

北部支部 (15社)

- イーテクノス(株)(熊谷市)
- (株)イーラスト埼玉(行田市)
- (株)エコー(深谷市)
- 共和電機(株)(秩父市)
- 熊谷電機(株)(熊谷市)
- (株)栗原電機(深谷市)
- 霜田電気(株)(皆野町)
- 中外電気工業(株)(深谷市)
- (株)東電工業社(熊谷市)
- (株)長井電機(熊谷市)
- (株)沼尻電気工事(深谷市)
- (株)早川電工(鴻巣市)
- 松山電設(株)(東松山市)
- ムサン電機工業(株)(行田市)
- ◎(株)躍進電気(深谷市)

南部支部 (9社)

- ◎(株)内山電設(株)(川口市)
- (株)奥富電気工事(川口市)

[さいたま市]



定着率向上へ人間力磨く

中堅技術者フォローアップ研修

6月20日、21日の2日間、さいたま市南区のヘリテイジ浦和別所沼会館で、中堅技術者フォローアップ研修を実施しました。初日の講師を務めたM&MC合同会社代表の國實誠氏は全員に同じ質問を問いかけることで集中力を切らせずに指導。「会社や現場で最も重要なことはコミュニケーション。人間力を磨くことが大切です」と、自ら考え発信し行動して答えを導いていく方法論を実践しました。

1日目は部下育成の重要性、コミュニケーション能力の向上などについて、職場や現場での対応策を学び、終了後には職場での問題を解決する方法をテーマに懇談会も行いました。

2日目は元東京電気技術高等専修学校校長の菊地潔氏を講師に招き、現場代理人の業務、現場での管理業務、施工計画、工程管理、安全管理などを学んだほか、現場での失敗事例から良い施工・悪い施工などについて指導を受けました。



初日の研修の様子